

当部ホームページ  
↓QRコード



# 栗原NN通信

2018年9月5日発行  
第6号（平成30年度第2号）

## ●農地整備事業「大目地区」の工事が始まります！

平成29年度新規採択地区『大目地区』は、地域の皆様のご協力のもと、これまで事業を進めてまいりましたが、いよいよ今年度から区画整理工事が始まります。工事は、稲刈りが終わる秋から春までの時期に実施します。

工事開始に際し、大目地区営農推進委員長の小林さんに事業に期待することや営農への意気込みなどについてお話を伺いましたので、地区の概要とあわせてご紹介します。

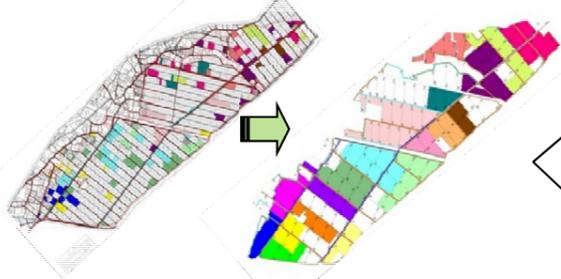
### （1）大目地区の概要

大目地区は栗原市若柳、一級河川迫川の右岸に位置する水田地帯で、受益面積134.7haの農地整備事業地区として採択されました。昭和初期に耕地整理が行われ、水稻を中心とした営農が行われています。本地区西側には若柳コンクリートエレベータが設置されており、農地整備事業によりさらなる農業経営の効率化が期待されています。



#### 担い手への集積のイメージ

(整備前) (整備後)



農地整備事業の実施（農地の大区画化、道路・水路の整備など）により、担い手への集積、効率的な農作業が実現し、新たな農業への展開が期待されます。



### （2）大目地区 営農推進委員長小林さんにインタビュー！

#### ほ場整備事業に期待することは何ですか？

1haの大区画ほ場で作付けができるようになることです。現在、複数戸で集まり一緒に農作業をしているのですが、小さい田んぼだと、どうしても非効率的になってしまいます。ほ場の大区画化で、効率的な営農につながることを大いに期待しています！



ご協力ありがとうございます！



#### 大目地区の営農ビジョン、教えてください！

ほ場整備後を見据えて、若い担い手、後継者の育成をしていきたいと考えています。これからの農業は、組織化・法人化が必要になると思います。ほ場整備をきっかけに、法人の設立や新たな機械の導入を進めていきたいです！

## ●マラウイ共和国の技術研修員が栗原管内を訪れました！

農業水利技術研修を目的に、アフリカのマラウイ共和国から今年も4名の研修員が平成30年7月26日～27日に栗原管内を訪れました。

この研修は、宮城県の技術協力事業としてマラウイ共和国の技術者を研修員として受け入れているもので、平成23年度から実施しています。研修員は約3週間の研修期間中、宮城県内や福島県で農業及び農業施設の維持管理に関する技術と知識を学びます。栗原管内では、7月26日に瀬峰の専業農家でミニトマトの栽培方法や堆肥の作り方などを学びました。翌27日には、宿の沢ダムを管理している小山田川沿岸土地改良区の職員から農業用ダムの管理方法を学んだほか、レベルなどの測量機器を使った実習を行いました。



ミニトマトを栽培しているハウス内を見学



測量機器（レベル）の使い方の指導を受ける様子

※農業水利技術研修とは・・・

- 宮城県及びJICA（独立行政法人国際協力機構）とマラウイ共和国との合意に基づき、マラウイ共和国の農業水利技術者育成支援を目的とした国際技術協力事業の1つです。
- 宮城県では、平成23年度から毎年実施し、平成30年度は、7月17日から8月3日までの日程で行われました。

## ●栗原市瀬峰で田んぼアートが行われました！

平成30年6月9日（土）、栗原市瀬峰泉谷地内の農地整備事業「大里地区」内のほ場で、稲で田んぼに絵を描く「田んぼアート」の田植えが行われ、親子連れなど約140人が参加しました。

参加者はあらかじめ田んぼにつけられた目印をもとに色の異なる品種の稲を植えていきました。田んぼに目印をつける作業は例年、宮城県小牛田農林高等学校の生徒が測量して行っています。当日は天候にも恵まれ、参加した子供たちは慣れない作業で泥だらけになりながらも、2時間ほどの田植えを楽しんでいる様子でした。

「田んぼアート」は、平成20年から「田んぼアート実行委員会」（千葉孝行代表）をはじめとする地域の方々が主体となって毎年実施しているもので、今年で11回目となります。今年の図柄は、宮城県を本拠地とするプロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」のマスコットキャラクター「クラッチ」でした。



今年度の田んぼアート

例年田んぼアートの見頃は6月下旬～7月下旬となっています。

# ●多面的機能支払活動組織「新田地区農村環境保全組合」 でホタルの生態系保全活動の取組が行われました！

平成30年6月30日（土）、栗原市志波姫八樟地内で、多面的機能支払活動組織「新田地区農村環境保全組合」による初めての「ほたるまつり」が開催されました。当日は大人52名、子ども39名、計91名が参加しました。同組織は、平成19年度に組織を設立した当初からハイケポタルの復活を目標に掲げており、これまで地域一丸となってホタルの生態系保全活動に取り組んできました。

「ほたるまつり」では、登米市東和町米川の「鱒淵ゲンジボタル保存会」の代表によるホタルにまつわる講話、映画鑑賞、子どもたちを対象としたクイズ大会が行われるなど、大人も子どもも楽しいひとときを過ごしました。まつりの締めくくりは、もちろんホタル鑑賞。真っ暗闇の中で、チカチカと可愛らしい光が四方八方に舞い飛び幻想的な光景に、参加者は頬を緩めながらこれまでの活動の成果を噛みしめている様子でした。

また、8月5日（日）には、ホタル水路の除草と生き物調査が行われ、構成員やPTA関係者（保護者）、子どもの計86名が参加し、早朝6時からの作業に汗を流しました。



ホタル水路清掃と生き物調査の参加者

## 「宿の沢ダム」・「菅生ダム」のダムカードを配布しています

当部では、ダムについての理解を深めていただくことを目的に、所管している「宿の沢ダム」（栗原市高清水）と「菅生ダム」（大崎市岩出山）の2種類のダムカードを作成・配布しています。

ご希望の方は直接当部へお越し下さい。

### 配布に伴う注意事項

- 配布時間は、午前8時30分から午後5時15分（土・日・祝日は除く）まで。
- 郵送等での配布は行っていません。
- その他、詳細については、下記HPをご覧ください。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-ns/kuriharandamcard.html>



# ●「2018栗原市民まつり」で農業農村整備事業のPRをしました

平成30年8月25日（土）にイオン栗原志波姫店で「栗原市民まつり」が開催され、迫川上流土地改良区が出展するブースの一角で当部も農業農村のもつ多面的機能についての資料配付など農業農村整備事業についてPRを行いました。当部は、今年で3年目の参加となります。

当日、栗原市民まつり会場には、4万3千人が訪れ、当ブースにも多くの方々にご来場いただきました。



今年度もブース内は大繁盛！来場者は、農業農村のもつ多面的機能について説明したパネル（クイズあり）に見入っていました。



来場者への説明を行う当部職員



当部のスペースでは、水土里の恵みカードや栗原NN通信（広報紙）なども配布し、多くの方に手に取っていただきました。

# ●農業用ため池の緊急点検を行いました

平成30年7月豪雨により、西日本を中心に甚大な被害が発生しました。この災害では、農業用ため池の決壊により死者が出る被害も起こっています。このような事態を受けて、全国一斉にため池の緊急点検が行われました。

点検の対象は、周りに民家や公共の施設があり、堤体が壊れたときに被害を受ける可能性があると考えられたため池で、宮城県内には約900箇所あり、このうち、栗原管内には200箇所あります。今回の点検は、それぞれの管理者が基本的に実施するものですが、多数のため池を管理している栗原市からの応援要請を受けて、当部でも25箇所のため池の緊急点検を行いました。



ため池の緊急点検を行っている様子

ため池の周辺は、雨が降ってなくても滑りやすく、誤って転落する危険があります。特に、子供が水遊びや釣りに夢中になって、ため池に転落する事故は後を絶ちません。また、高齢者の水難事故も発生しています。フェンスがないため池もあるため、ため池には近づかないようお願いします。

## 編集後記

今年は、西日本を中心に大雨の被害が発生しており、台風の発生件数も例年になく多いようです。農作物の被害も心配されていましたが、栗原市内の水田では、稲が順調に生育しており、収穫の時期が楽しみです。

「食欲の秋」到来に向け、皆さまも体調管理に気をつけてお過ごし下さい。



北部地方振興事務所栗原地域事務所
   
 農業農村整備部(広報担当)発行
   
 〒987-2251
   
 宮城県栗原市築館藤木5-1
   
 TEL: 0228-22-2111
   
 FAX: 0228-22-9284
   
 H P : <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-ns/>
  
  
仙台・宮城観光PRキャラクターむすび丸